

たまりばの25年の

「あゆみ」と「いま」



「25年のあゆみ」

わたしたちは、学校や家庭、地域の中に自分の居場所を見いだせない子ども・若者の集まるスペースとして、1991年に「フリースペースたまりば」をはじめました。

主なできごと

| | |
|------|--|
| 1986 | 代表・西野が不登校児童・生徒や高校を中退した若者の居場所づくりにかかわり始める。 |
| 1990 | 移動型の居場所をはじめます。 |
| 1991 | <p>移動型から定住型の居場所を開設(川崎市高津区諏訪)。 多摩川(タマリバー)から「フリースペースたまりば」と命名。</p> |
| 1992 | ビデオ「ここならGOO! -学校に行かない子どもたちの居場所・フリースクールガイド」に紹介される。演出プロデュース・撮影は、保坂展人氏(現世田谷区長)。 |
| 1993 | 『たまげた通信』創刊。ミーティングを月一回に定例化。 米沢スキー合宿が始まる。 |
| 1994 | 初めて、たまりばフェスティバルが開催される。夏の八丈島キャンプが始まる。 |
| 1995 | <p>高津区久地に移転。部屋 の大きさも85㎡になり、活動の幅が広がる。 茨城県八郷町にて田んぼづくりスタート。</p> |

| | |
|------|--|
| 1996 | 会費制度の見直し(4種類を設定)。高津区区民祭に参加。 |
| 1997 | 話し合いを経て 会費は任意制 に。おやじの会発足。 コミュニケーションラボ 21 の劇公演でたまりばの移転が題材となった「僕たちの自由空間」が上演される。 生活クラブ生協'97 キララ賞(神奈川県若者生き生き大賞)受賞。 |
| 1998 | 神奈川県知事・川崎市市長表敬訪問。 フリースペースたまりばに県知事(岡崎洋氏)が視察。 たまり番茶(実務ミーティング)スタート。 川崎市子ども権利に関する条例づくりに、調査研究委員会の世話人の一人として代表・西野が関わる。 |
| 1999 | たまげた8周年記念号発行。 雑居まつり(世田谷)・多文化フェスタ(川崎・高津区)に初参加。 |
| 2000 | 手作りのいろりが完成。いろり端でヴァイオリニスト・千住真理子さんによるたまりばコンサートを開催。 第 13 回神奈川県地域社会事業賞を受賞。 12 月市議会で、川崎市子どもの権利に関する条例が制定される。 |
| 2001 | スタッフだけでは担いきれない部分を有志で支えようと「やろう会」発足。 たまりば 10 周年記念フェスティバルの開催。 ホームページプロジェクトがスタート。 神奈川県ボランティア活動推進基金 21「奨励賞」を受賞。 川崎市子ども権利条例制定を記念して「川崎子ども夢パーク」づくりがスタート。 代表・西野が「川崎子ども夢パーク推進委員会」および「川崎市子ども夢パークにおける不登校児童生徒に関する協議会」の委員となる。 |
| 2002 | 新スタッフ体制スタート。川崎市民プラザでフェスティバル。コーリヤンデーにたまりばのチャングチームが参加。 スタッフ数人が西野と共に「川崎子ども夢パーク運営準備会」に委員として参加。 |
| 2003 | 「特定非営利活動法人 フリースペースたまりば」として NPO 法人となる。 たまげた通信 100 号記念号を発刊。 川崎市子ども夢パークが完成し、川崎市(生涯学習振興事業団)より「フリースペースえん」の運営を受託。 |
| 2004 | 第 57 回神奈川県県民功労者表彰を受賞。(NPO 法人として初) |
| 2005 | 講演会「生きざまに学ぶ」がスタート。かわさき子ども権利の日のつどいで脚本家・山田太一さんと代表・西野が対談。 |

| | |
|------|---|
| 2006 | <p>「(財)川崎市生涯学習財団」と共に、指定管理者として「川崎市子ども夢パーク」全体の管理運営にあたり、代表・西野が所長に就任。</p> <p>「たまりば」十五周年と『居場所のちから』の出版を祝う会(神奈川県立青少年サポートプラザ)の開催。「工房たまりば」をスタート。</p> |
| 2010 | <p>指定管理者として(公財)川崎市生涯学習財団とともに、川崎市子ども夢パーク(第2期)の管理・運営にあたる。</p> |
| 2011 | <p>たまりば 20 周年記念コンサート&フェスティバルを開催。</p> |
| 2013 | <p>「川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん」10 周年記念イベントを開催。川崎市市長(福田紀彦氏)も出席。</p> <p>韓国・光州広域市で開催された世界人権都市フォーラムで西野が講演。</p> <p>「川崎市学習支援・居場所づくり事業(よつばの会)」を受託。</p> |
| 2014 | <p>川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」の開設・運営。</p> <p>「川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業(ふれあい心の友)」を受託。</p> <p>文部科学大臣(下村博文氏)が「川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん」を視察。</p> <p>ドイツ・ベルリンで開催された青少年援助大会で西野が講演。</p> <p>日本ユニセフ協会主催の研修会(2014・2015)にて、全国の教育委員会および校長会を対象に、夢パーク・フリースペースえんの実践報告を行なう。</p> |
| 2015 | <p>ESD(持続可能な開発のための教育)のグッドプラクティス顕彰を受ける(関西国際交流団体協議会)。</p> <p>文部科学省「フリースクール等に関する検討会議」に西野が委員として参加。</p> <p>文部科学省職員意識改革プロジェクト特別研修に講師として西野が招かれる。</p> <p>代表・西野が川崎市市長表彰(社会福祉功労者表彰)を受賞。</p> <p>ブリュッケを川崎市市長(福田紀彦氏)が視察。</p> |
| 2016 | <p>指定管理者として(公財)川崎市生涯学習財団とともに、川崎市子ども夢パーク(第3期)の管理・運営にあたる。</p> <p>フリースクール等で学ぶ不登校児童生徒への支援モデル事業の受託。</p> <p>たまりば 25 周年記念シンポジウム「ともに生き、ともに学ぶ」の開催。</p> <p>「たまりばフェスティバル 祝25周年」の開催(予定)。</p> |



二子新地



久地





**子ども夢パーク
フリースペースえん**





たまりばの主な活動

- (1) 誰もが安心して過ごせる居場所の開設と運営
- (2) 不登校・ひきこもりなどで悩む本人や家族等の相談・援助活動
- (3) フリースペース利用者による自主企画・活動の支援
- (4) 保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会及び情報の提供・発信活動

事業内容・居場所(活動拠点)

- A) 川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん(指定管理施設)
- B) 川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」
(川崎市生活保護受給世帯等若者就労自立支援事業)
- C) 「よつばの会」(川崎市学習支援居場所づくり事業)
- D) 「ふれあい心の友」(川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業)
- E) 「FS 支援モデル事業」
(フリースクール等で学ぶ不登校児童生徒への支援モデル事業)
- F) 「工房たまりば」

「川崎市子ども夢パーク」

＜川崎市こども未来局青少年支援室＞

夢パークは、「川崎市子どもの権利に関する条例」の具現化を図ることを目的として川崎市によって設置され、子どもの活動拠点、プレーパーク、不登校支援、乳幼児支援、多文化共生、世代間交流等、多機能が備わった子どもたちの総合的な居場所です。

夢パークでは、子どものいのちを真ん中におき、一人ひとりの自己肯定感を育む環境づくりに取り組んでいます。子どもが安心して、ありのままの自分でいられることを尊重し、自分の中から湧き出る「やってみたい」を大切にしています。

冒険遊び場(プレーパーク)の理念を中心に据え、できるだけ禁止事項をつくらず、子どもの発想で自由に遊び、自分の力の限界に挑戦し、それができたときの達成感を通して自信を育むとともに、安心して失敗できる環境を整備しています。

子どもの「参加」を大切に、運営や遊具の製作・設置・撤去、イベントの開催などに子どもの意見を聴き、子どもたちが自主的・自発的に活動する拠点となる居場所づくりを目指しています。

夢パークの日常は、午前中には近所の乳幼児親子、遠足などの保育園の子どもたちが訪れ、午後には放課後の小中高校生、バイトや仕事を終えた常連の若者たちが訪れます。スタッフが毎日 9:00～21:00 まで常駐しているので、子ども・若者たちが誰でも、いつでも来ることができる場です。もちろん、一人で来することもできます。お金がかからず、全天候スポーツ広場で運動する場合は受付で用具を借りることができます。機材が揃っているスタジオも、講習を受けて登録をすれば無料で使えます。乳幼児親子がゆっくり過ごせる部屋もあります。

夢パーク全部が子どもの居場所

泥んこになって走りまわったり、水遊びができます。火や工具も使えます。スポーツ広場や思いっきり音が出せるスタジオもあります。

火 土 工 具 が 使 え る

プレーパーク (冒険遊び場)
「自分の責任で自由に遊ぶ」

全天候型スポーツ広場

バスケ・卓球・バレー・
バドミントンなど
(夜間照明つき)

・スペース「ごろり」
・川崎市子ども会議事務室



フリースペースえん

「フリースペースえん」

＜川崎市子ども未来局青少年支援室＞

えんは、子ども夢パーク内にあり日本全国でも珍しい公設民営のフリースペースです。

年齢や国籍、経済的状況、障がいのあるなし、非行傾向の有無に関わらず、家庭や学校・地域以外に居場所が必要な子ども・若者たちが登録して通うことができる場です。

利用料はかからず、10:30～18:00の開設時間の中で、いつ来て・いつ帰ってもよく、一日の過ごし方も自分で自由に決めることができます。

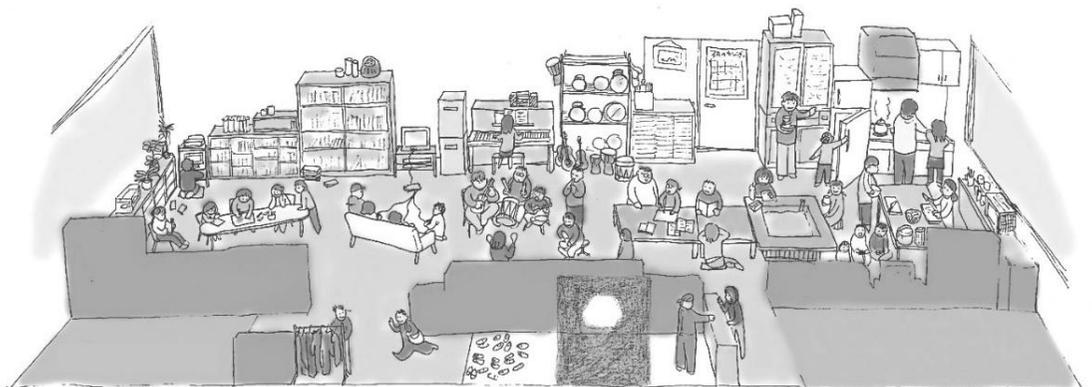
25年間、毎日変わらずに行われているのは昼食作りです。まずはメニューを決め、畑で野菜を収穫し、スーパーに食材を買いに行き、作りたい人で調理をします。昼食を食べたい人は申し、250円の実費を払い、料理ができあがったら、みんなで一緒に食べます。

過ごし方は人それぞれです。部屋で本を読んでいる人、勉強をしている人、仲間とゲームをしている人、楽器演奏をしている人、話に夢中になっている人。外で、鬼ごっこをしている人、サイクリングロードで自転車に乗っている人、全天候スポーツ広場でサッカーやバスケットをしている人など、夢パーク全体を使って、みんなが思い思いに自由に過ごしています。

やりたい人が自由に参加できる様々な講座も開催されます。「フォルクローレ」「パーカッション」「ボイストレーニング」「演劇」「ダンス」「仮説実験授業」「アート」「藍染め」「世界の環境について考えるワークショップ」「イタリアンパスタづくり」「お菓子作り」など、バリエーションも豊かです。

このような講座やイベントなどの企画は、「やってみたい！」と思った人がみんなが参加するミーティングで提案し、「この指とまれ！」方式で仲間を集め、実現していきます。

ここは、通ってくる子ども・若者たちが自由にデザインし、創り出す居場所なのです。ここに集う一人ひとりがこの場のつくり手なのです。



「川崎若者就労自立支援センター ブリュック」

＜川崎市健康福祉局生活保護・自立支援室＞

「ブリュック」では、15～29 歳で就学・就労していない生活保護世帯の若者たちの自立に向けた居場所・就労支援を行っています。

居場所支援では、午前中は毎日昼食作りを行っています。食べたい人が 250 円の実費を払い、それを集めて食材を買いに行き、料理を作ってみんなで一緒に食べています。

午後には、グループワークを行っています。

語り合い・分かち合いのワーク、就労準備に関わるワーク、出会い・学びのワーク、自分発の企画(外出)等、様々なプログラムを行っています。

就労支援は、個別対応で行っています。スタッフとともに、一人一人に合った生き方・将来的な就労先を一緒に考えていきます。

定期的に面接を重ね、スタッフと一緒に考え・行動し、ハローワークで求人情報の収集をしたり、実際に職場を見学したり、有償・無償のボランティアに参加したりしています。

様々な体験を通じて、少しずつ「やりたい」ことが見つかってきたら、一定期間、理解のある協力企業・団体への実習も体験することができます。そのような体験を重ねる中で、本人が「働きたい」と思ったら、それを実現するための支援を行っています。少しでも、地域の中に若者たちが働くことのできる職場が増えていくように、地域の理解ある経営者との連携も進めています。

「よつばの会」

＜川崎市健康福祉局生活保護・自立支援室＞

よつばの会は、高津区内の生活保護世帯の中学生等が高校進学を目指して週 2 回、夢パークの中にある多目的室でスタッフや大学生と一緒に学習をしています。

学習時間は夜の 18:30～20:30 なので、「フリースペースえん」の中ではスタッフがおにぎりを握ります。学習時間の合間にはしばしの休憩時間があり、みんなでおにぎりを食べながら談笑したり、悩み相談をしたりして、ゆったりした時間を過ごします。

学校のテスト後などは、子どもたちと大学生が全天候スポーツ広場に集まって、バスケをしたりもしています。

夏休みや冬休みには、たこ焼きパーティーやクレープ・ケーキ作りなどの交流会も開催します。

よつばの会は、子どもたちの学習の場であり、発散の場であり、安心して相談できる場であることを目指しています。

「ふれあい心の友」

＜川崎市子ども未来局青少年支援室＞

ふれあい心の友は、川崎市内の児童相談所(子ども家庭センター、中部児童相談所、北部児童相談所)と関わりのある不登校・ひきこもり傾向にある子どもたち(18歳未満、主に小中学生)を対象に個別活動・グループ活動を行っています。

個別活動では、「ふれあい心の友」の登録者(主に大学生)が各児童相談所内で子どもたちに寄り添いながら、一緒に学校のことや家族のことなどいろいろな話をしたり、苦手な勉強をしたりしてひと時を過ごします。たまりばは、「ふれあい心の友」登録者の募集を行い、「不登校・ひきこもりの理解」などの研修をし、派遣をしています。グループ活動では、月に1回程度スタッフが各児童相談所に行き、児童相談所の職員と共に、通ってくる子どもたちとゲーム、工作、料理などをしながら一緒に活動しています。子どもたちのニーズややりたいことを実現し、楽しい時間をつくれるように、活動内容の企画や準備、当日の運営などを行っています。

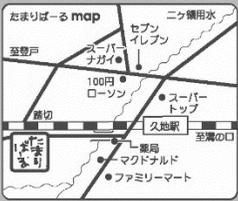
「FS 支援モデル事業」

＜川崎市教育委員会＞

FS 支援モデル事業では、フリースペースに通う子どもたちの現状をスタッフが把握し、一人ひとりの状況に応じた学習や進路の相談援助を継続して行います。また、2016年度は国の補正予算により、川崎市在住の生活保護世帯や就学援助世帯の子どもたちがフリースペースに通所したり体験合宿に参加したりする際に経済的援助が受けられるようになりました。

「工房たまりば」

子ども・若者、保護者などの手づくりによる藍染め製品を中心に、つながりのある地域作業所や関係団体の品物を展示・販売しています。同じスペース内にオーガニックカフェ「たまりばーる」を設け、その運営は会員の保護者が担っています。



おまりばーる map

登録戸

100円

ローソン

セブンイレブン

ニッポン水

スーパー

トリア

久地駅

至善の口

南武線

マクドナルド

ファミリーマート

オーガニックカフェ

たまりばーる

TEL/FAX 044-813-5248

南武線久地駅下車徒歩2分
川崎市多摩区宿河原6-26-24 フジビル1F

